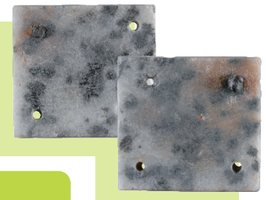
縄文、その後の装い

弥生時代以降は、農耕による生活に変わったことで、社会も大きく変わり、装いの意味合いもまた変化したと考えられます。
縄文時代に比べ遺跡からみつかる装いに関する遺物が少ないことから、装身具よりも衣服そのものの色や形を重視していたのかもしれません。八戸近辺では、古代から中世までは中央政権との交流を示すような資料が主に見つかっています。近世に入ると、庶民が使ったと思われる櫛や鬢水入れといった装いに関する資料が比較的多く見つかるようになります。このことは、婚礼などの特別な時以外も、人びとが自分自身の装いに気を配る習慣が広まったことを示しています。



【参考※】
西壁女子群像（高松塚古墳）
7世紀



石帯
（青森県田向遺跡）
平安時代



櫛（青森県新井田古館遺跡）
15世紀以降

【参考】
江戸名所百人美女
19世紀
（歌川国久画
国立国会図書館）



柄鏡
（青森県新井田古館遺跡）
18〜19世紀

新たな装い

現代での装いは、縄文時代とは異なり、個人の美への欲求を満たす、また社会生活を送るうえで問題が生じないようにすることを主な目的としていますが、化粧やアクセサリーの着用といった装う過程での行為自体は、縄文時代と共通点があります。
また、最近では多くの人が利用するインターネットやゲームなどでのアイコンやアバターは、自分を示すデータであり、いわば実体のない仮面のようなものです。これは縄文時代にない装いの形ですが、素の自分とは異なる存在に変身するという点では、縄文時代につながるものがあると言えるかもしれません。

※画像出典　アイヌ風俗図：ColBase（https://colbase.nich.go.jp/）より 一部加工
高松塚古墳 西壁女子群像：文化庁 1972 「壁画古墳 高松塚」より

EVENT

関連イベント 1

企画展ギャラリートーク

学芸員による展示解説

申込不要
企画展をご観覧の方が参加できます。

［日 時］会期中毎週土曜日
午後2時〜
※11月6日(土)・13日(土)は午前10時〜
［会 場］是川縄文館 2階 企画展示室

関連イベント 2

企画展考古学講座

要申込
［定 員］50名
定員に達し次第、受付を終了します。

［演 題］「縄文人が“装う”意味」
［講 師］栗島 義明 氏
（明治大学 研究知財戦略機構 黒耀石研究センター 特任教授）
［日 時］11月6日(土) 午後2時〜午後4時
［会 場］是川縄文館 1階 体験交流室

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館　〒031-0023 八戸市大字是川字横山1／TEL：0178-38-9511　FAX：0178-96-5392

［開館時間］午前9時〜午後5時（入館は午後4時30分まで）　休館日／10月18日(月)・25日(月)・11月4日(木)・8日(月)・15日(月)・22日(月)・24日(水)
［観　覧　料］一般250円／大・高校生150円／中・小学生50円（団体料金有）　※11月3日(水)は「是川縄文の日」のため観覧料無料です。
［交　　通］JR八戸駅東口 南部バス・是川縄文館ゆき、約20分（土・日・祝）／自動車：八戸I.Cから10分

［後　援］「青森県の縄文遺跡群」世界遺産をめざす会、(株)東奥日報社、(株)デーリー東北新聞社、
青森放送(株)、(株)青森テレビ、(株)八戸テレビ放送、青森朝日放送(株)、コミュニティラジオ局 BeFM
［協　力］青森県立郷土館、階上町教育委員会、五所川原市教育委員会、八戸市博物館、八戸市南郷歴史民俗資料館、
岩手県教育委員会、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、岩手県立博物館

HP：https://korekawa-jomon.jp

縄文 JOMON JAPAN
2021 世界遺産

令和3年度秋季企画展

2021

10/16 SAT → 11/28 SUN

解説リーフレット

2021 AUTUMN YOSOOI METAMORPHOSE
装い［よそおい］身を飾る人びと

「装い」とは、見た目を整えたり、飾ったりすること、またそれに用いるもののことを指します。私たちが毎日身に着ける服や靴、アクセサリーや化粧なども「装い」の中に含まれます。「装い」はその時々のその地域の習俗を反映するもので、人びとのくらしを考えるうえで欠かせない要素の一つです。
本企画展では、縄文時代を中心に、装いに関する資料を通して現代までの「装い」の種類やその意味の移り変わりについて探ります。

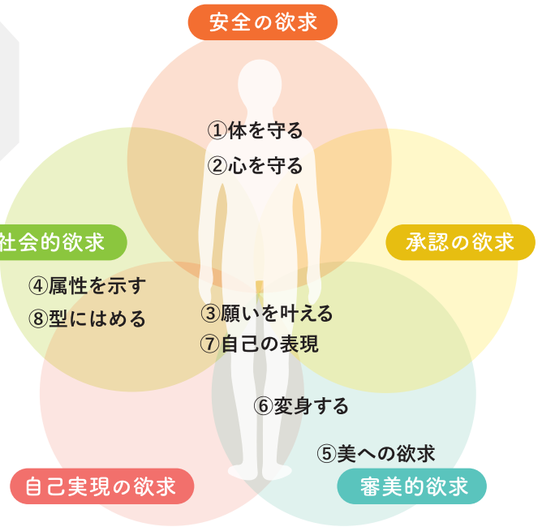
装い（よそおい）とは

人間はなぜ服を着るようになったのか

およそ20万年前に誕生した我々の祖先、ホモサピエンスは、活動による体温の上昇を抑えるため、体毛を減らし、衣服で体温を調整することで活動範囲を広げたと考えられています。

なぜ「装う」のか

人はなぜ装うのか。装いに関する資料から、その理由はさまざま考えられます。
①暑さや寒さ、物理的な危険から身を守る
②他人にみられて「恥ずかしい」という感情をやわらげる
③願いを叶える
④立場や所属など個人情報を示す
⑤人間がもつ「美しくありたい」という欲求を満たす
⑥別の自分あるいは別の存在に変身する
⑦個人がどのような人物かを表現する
⑧装う人物を一定の型に入れる



装う理由の例
（『服飾文化論』（小池 1998）・
マズローの７つの基本的欲求をもとに作成）



「装い」の種類

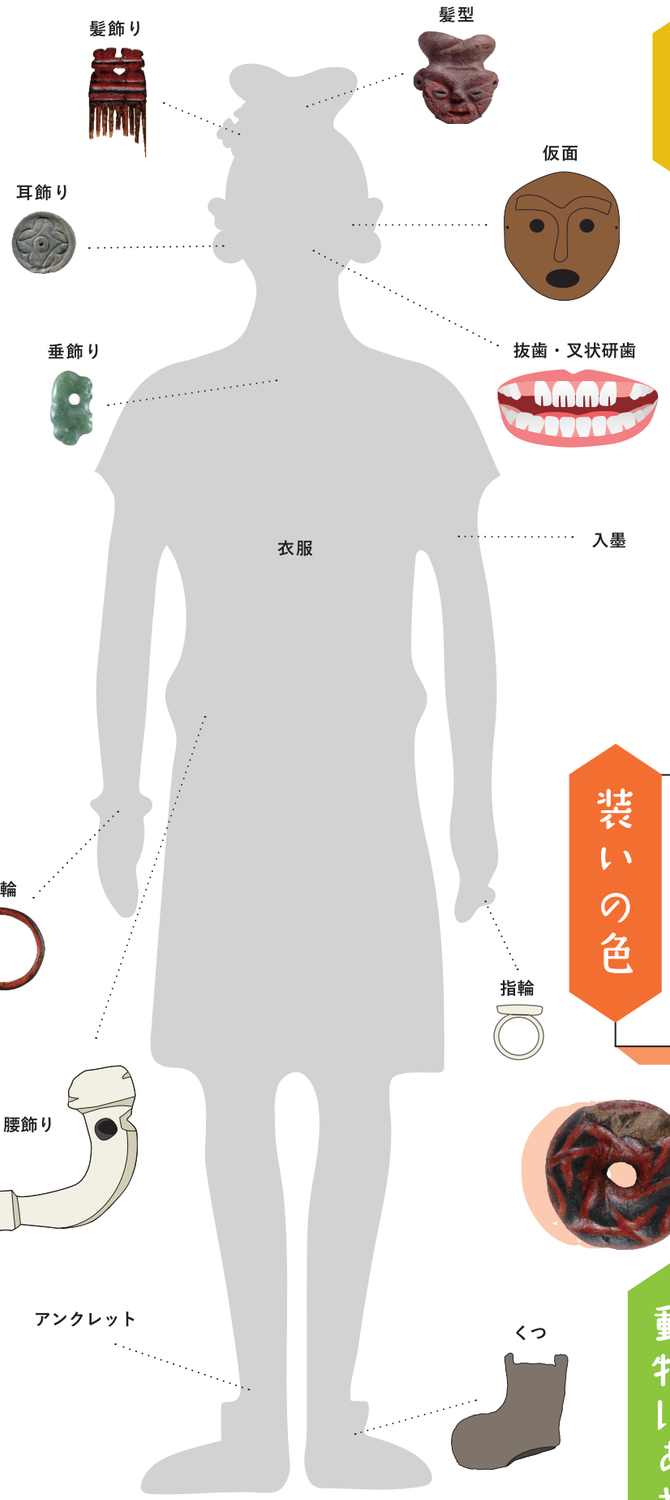
「装う」という行為には、大きく分けて以下のような2つのグループに分けることができます。

①身に着ける
…衣服や靴、首飾りなどの脱いだり取り外しが可能なものを身に着けるグループ。

②体に刻む・描く（身体加工）
…入墨や化粧、抜歯など体に直接描いたり、加工したりするグループ。

縄文の装い

縄文時代の遺跡からは、耳飾りや首飾り、髪飾りなどさまざまな種類の装身具がみつかっています。また、あえてヒトならざる姿につくられる土偶は、他方で当時の習俗を映しているとも考えられ、その装飾や文様は衣服や装身具、身体加工を表しているとも考えられます。縄文人にとって装いは、身体を守ったり美しく着飾りたいという欲求をみたすほかに、何かを祈る、悪いものを退ける、獣や精霊など自分以外の存在に変身する、どのような立場にあるのかを示すといった儀礼的、社会的な意味合いが強かったと考えられています。



こんなにある！ 縄文の装身具

髪飾り HAIR ORNAMENTS

植物質のもの、あるいは動物の角や骨を材料としたものがみつかっています。縄文時代の櫛は、まとめた髪を留める簪（かんざし）や髪に刺す飾りとして使われたものと考えられます。赤色の漆や顔料が塗られたものも多く、頭に飾られた赤や白の髪飾りは、縄文人の黒髪にきれいに映えたことでしょう。



重要文化財
赤漆塗櫛
（青森県中居遺跡）



鹿角製櫛
（青森県一王寺遺跡）

髪型 HAIRSTYLE

縄文時代の土偶には、当時の髪型をうかがえるものがあります。髪を頭の上で一つにまとめたり、三つ編みにしていたりと、その種類はさまざまです。髪を結った理由は、もちろん長いままだと作業の邪魔になるということもありますが、髪型によって年齢や所属を示すなどの意味があったとも考えられています。



重要文化財
土偶（青森県中居遺跡）

入墨 TATTOO

顔が表現された土器や土製品には、顔に文様が描かれることがあり、アイヌの入墨とあわせて、化粧や入墨があったのではないかと考えられています。右下の資料は、頬の部分に文様が描かれているほか、口角の両端にも装飾が施されています。この口角の文様は、同時期の土偶にもたびたびみられ、口元に入墨などの身体加工をすることが慣習化していたとも考えられます。



人面形浅鉢
（青森県五月女萢遺跡）

装いの色 COLOUR

縄文時代の装いに用いられる色の中心となるのは「赤」「白」「黒」「緑」です。縄文人はこの4色にこだわりを持っていたようで、簡単に手に入る身近な材料ではなく、わざわざ遠い地域にあるより質の良い石や顔料を求めたり、加工しにくい壊れやすい貝、硬いヒスイなどを材料としたりしていました。



重要文化財
漆塗り耳飾り
（青森県中居遺跡）



勾玉
（青森県中居遺跡）



【参考※】アイヌ風俗図拡大 19世紀
（平沢屏山筆 東京国立博物館蔵）

腕輪 BRACELETS

木・土・貝・牙製のものがみつかっています。複数のパーツからできた組み合わせ形のものと、右の資料のように一体形のものがあります。
腕輪のうち貝製のものはこわれやすいため、特別な時にしか身につけなかったのではと考えられています。



重要文化財
漆塗り腕輪
（青森県中居遺跡）

耳飾り EAR ORNAMENTS

今でいうピアスのように、耳たぶに穴をあけて耳飾りをはめ込んでいたと考えられます。石や土、木などを材料として、さまざまな形、文様のものがつくられました。時期によっては、年を重ねた証として次第に大きなものをはめるような儀式があったとも考えられています。



重要文化財
土製耳飾り
（青森県中居遺跡）

動物にあやかる ANIMALS

縄文時代の装身具の中には、動物の骨や角、牙を材料としたものがみつかっています。動物の骨角の白さに美しさを見出したこと以外に、強い動物の体の一部を身につけることで、人間にはない生命力を自分のものとするためだったのかもしれません。また、その強い動物を仕留めた自分の強さを知らしめるためであったとも考えられます。



猪牙製垂飾品
（青森県寺下遺跡）



重要文化財
クマ指骨製垂飾品
（青森県中居遺跡）